

令和2年度  
日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大委託事業  
(日本食・食文化の功労者表彰)

---

## 協議会総会 議事録

---

# 協議会総会 議事録1

## 【農林水産物等輸出促進全国協議会 茂木友三郎会長のご挨拶】

ただいまご紹介をいただきました、農林水産物等輸出促進全国協議会会長を仰せつかっております、キッコーマン株式会社取締役名誉会長の茂木友三郎でございます。皆さま、本日は大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日は野上農林水産大臣にご臨席をいただきしております、また、菅内閣総理大臣も後ほどお越しいただけるということであり、菅総理、野上大臣に御礼を申し上げます。まずは日本食海外普及功労者として表彰をお受けになります3人の皆さま方、おめでとうございます。現在、海外では日本食への関心が高まっておりますが、これも皆さまのような方々が、長年にわたって食習慣の異なる海外でご努力をされたことによるものであるというふうに考えております。また、輸出に取り組む優良事業者として表彰をお受けになります10事業者の皆さま、おめでとうございます。農林水産物、食品の輸出額は、この8年間で着実に増加いたしており、これも皆さまのような方々がマーケットインの発想で輸出にチャレンジしてきた結果であるというふうに考えております。

さて、本年の農林水産物、食品の輸出額でございますが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本年1、10月の累計の実績は7325億円であります、前年比マイナス1%となっておりますが、7月から4カ月連続で前年同月を上回るなど、明るい兆しも見え始めております。このような中、先日の閣僚会議において、農林水産物、食品の輸出拡大実行戦略が取りまとめられました。この戦略の実行は、輸出にチャレンジする事業者の後押しになると心強く感じております。今後はマーケットインの発想で海外市場で求められる需要に対し、民間がしっかりと対応していくことが不可欠であるというふうに考えております。われわれといたしましても、官民を挙げたオールジャパンの取り組みにより、世界に向けて安全で高品質な農林水産物、食品の輸出を拡大するため、さらに努力いたしたいというふうに思っております。結びに、協議会、会員各位のますますのご活躍を期待申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

# 協議会総会 議事録2

## 【野上浩太郎農林水産大臣のご挨拶】

どうも皆さま、こんにちは。ご紹介いただきました、野上でございます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。農林水産物等輸出促進全国協議会総会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。まず、協議会の会員の皆さんにおかれましては、農林水産物等の輸出にご尽力をたまわっておりますことに、厚く御礼を申し上げたいというふうに思います。初めに、本日、日本食海外普及功労者として表彰される皆さん、輸出に取り組む優良事業者として表彰される皆さん、誠におめでとうございます。長年にわたる日本食普及への情熱や輸出拡大への取り組みに本当に熱意を持って取り組まれてきましたことに対しまして、心から敬意を表したいというふうに思います。今後、人口減少によりまして、国内の食市場の規模が縮小すると見込まれます中、アジアを中心に世界の食市場の規模は拡大すると見込まれております。国内生産を維持、拡大するためにも、高品質といった日本の強みを生かした輸出拡大が重要となってまいります。このため、本年4月に農林水産大臣を本部長とします、農林水産物食品輸出本部を設置いたしまして、複数の省庁に分かれた手続き等を一元化することによりまして、施設認定の迅速化や輸出証明書の発給の利便性の向上等を実現してまいりました。また、先日の閣僚会議におきまして、農林水産物、食品の輸出拡大実行戦略が取りまとめられたところであります。戦略におきましては、牛肉やリンゴをはじめとする日本の強みを最大限生かす27の重点品目を設定しました。品目別に輸出目標を設定するとともに、マーケットインの発想に立って輸出に取り組む農林水産事業者を後押しするための施策を盛り込んだところであります。農林水産省としましては、この新たな輸出目標を達成して、農林水産物、食品の輸出立国を実現するためにも、この戦略に基づき、農林水産物、食品の輸出促進を図ってまいりたいというふうに思います。結びに、本日ご臨席の皆さんのご健勝と、さらなるご活躍を心から祈念いたしまして、私のあいさつといたします。誠にありがとうございます。

# 協議会総会 議事録3

## 【菅義偉 内閣総理大臣のご挨拶】

ご紹介にあずかりました、内閣総理大臣の菅義偉であります。

農林水産物等輸出促進全国協議会の総会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

始めに、日本食海外普及功労者、輸出に取り組む優良事業者として表彰されました皆様方に、心からお祝いを申し上げる次第でございます。食習慣が異なる海外における、我が国の食文化の普及や輸出の拡大に大きな貢献をされましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

農産品の輸出拡大によって地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んでまいりました。実は私、秋田の農家の長男坊でありまして、地方の所得を引き上げること、引き上げれば多くの人が地方に帰って、農業を、後継者としてしっかり育ててくれる、その思いで官房長官としても農業改革、林業改革、漁業改革、そうしたものを全面的に、農水省を支援してきたものであります。

これまで、積極的に取り組んできたその結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は、9,000億円と倍増いたしました。今年は年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況がありましたけれども、直近の10月は輸出額は対前年比21.7パーセント増と大きく回復しております。さらに、輸出額を向上させるために、2025年に2兆円、2030年5兆円という大きな目標を設定いたしました。先週、その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめました。牛肉やイチゴを始めとする27の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところであります。輸出先国のニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国の規制に対応した加工施設の整備というものをしっかりと進めてまいります。

今後とも、野上大臣、そして、この場にいらっしゃる皆様と力を合わせて、輸出の拡大に向け、全力で取り組んでまいりたいと思います。格段の御協力を心からお願い申し上げます。

結びに、茂木会長を始め、御臨席の皆様方のますますの御活躍をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

# 協議会総会 議事録4

## 【受賞者スピーチ：富田建生氏】

海のない国、世界一高い山があるエベレストの国、ネパールから参りました、富田です。元々、私は東レ株式会社の傘下のもと、インドの民族衣装であるサリーの企画、生産、販売に40年間従事してまいりました。しかし、昨今における繊維産業の衰退、円高の波に乗りきれず、事業の撤退、断念ということになりました。そのとき私は60歳前ありました。さて、これからどうするかと考えた時に、私がすぐに思い立ったのが、海のない国ネパールで、寿司、刺し身を提供する日本食レストランを開設したいというのが最初の考え方でした。

このような考え方方がスタートですから、私自身は包丁も握れませんし、もちろんキッチンに立つこともありません。しかしながら、日本のレストラン、日本料理が持っている昔からのおもてなしの心、思いやりや気配りの心があれば、まさに料理の技術がなくても何とかやっていけるのではないかというのが発想でした。このようにおもてなしを第一に考えて、まず、日本からベテランの料理人にカトマンズに来てもらい、スタッフへの指導、料理の指導、それから育成をやってまいりました。そして、ネパール人スタッフも日本にどんどん派遣し、勉強をさせて、現在に至っております。

現在、新型コロナウイルスが蔓延しており、ネパールも日本と同じようにすごく感染が広まっております。もちろん、ご多分に洩れず、われわれの営業も昨年の約70%減です。しかし、私はこのコロナウイルス感染症による悪影響はネパールだけに関わってくるのではなく、世界中の食品、レストランを持っている人、みんな大きなダメージを受けていますが、みんな同じ条件だから、逆にチャンスと捉えて前向きにやっていくということですと進んでおります。そして、今回頂きました賞が、私にとってはもっともっと頑張れという大きな励ましの、栄誉ある賞と考えております。

最後になりましたが、今回の栄誉ある賞を頂いたことは、ひとえに私どものネパールのお客さま、常連客のおかげであり、今までたくさんの日本食材を提供してくれたサプライヤーのおかげであり、そして、何にも増して、開店以来続けて働いてくれているスタッフのおかげだと感謝しております。今日は本当に栄誉ある良い日がありました。

ありがとうございました。

# 協議会総会 議事録5

## 【受賞者スピーチ（ビデオレター）：岸本秀樹氏】

ロシア、モスクワ在住、岸本秀樹です。この度は、このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。ひとえに在ロシア日本国大使館様からの推薦によるものと、大変感謝しております。

さて、私はモスクワに来て16年。当時は、日本食は高級というイメージから、低価格層の日本食レストランチェーンが増えてきた時代でした。当店も一般の方々に本当の日本食を食べていただきたいというコンセプトから2004年にオープンしました。現在は3店舗を展開しております。そのころ、日本食はヘルシーで人気になっていきましたが、まだまだ生の魚には抵抗があり、お客さまも若い人が多く、家族連れや年配の方は少なかったです。日本食といつてもロール（寿司は特に人気で、モスクワでは2005年ごろよりブームが始まり、日本食レストラン以外でもカフェやそのほかの国の料理のレストランでも、お寿司をメニューに出す所が増えました。しかし、当時、ロシア人のお客さまはお寿司などを醤油にどっぷり付けて食べる食べ方をされていたので、握りご飯を軟らかくして出すとご飯が崩れ、苦情が来るということもありました。ですので、まずお客さまに食べ方、お箸の持ち方を覚えていただくようにもしました。また、お寿司以外のメニューも知っていただこうと、新しいメニューを提供していましたが、当初はなかなか注文していただけませんでした。

16年が経ち、日本食も定着し、いろんなメニューを注文していただくようになりました。当時の若い人たちが子どもさんを連れて、家族連れで来るようになりました。日本の食材はモスクワではまだ手に入れにくいのが現状です。少しでも日本の食材や日本酒などを知っていただこうとメニューにし、提供しております。

日本の食材が手に入らなくなった際には、中国産が普及していました。また、2014年のクリミア半島による不景気、ルーブル安の為替の問題もあり、日本の食材が高くなり、中国産の安い価格との競争に大変苦労しているのが現状です。

お店以外でも日本食、日本食材を知っていただこうと、メディアの取材を通じて情報発信をしたり、日本大使館でのイベント、フードエキスポ、地方都市での日本文化イベントにも参加し、すしの実演、料理教室、その場での試食、家庭でもできる料理を紹介したりし、少しでもロシアの方に日本食を知っていただこうと情報発信しております。また、カザフスタンで行われたアスタナ博覧会ジャパンで、大阪万博への誘致のためのイベントにも参加させていただき、日本食の良さを紹介させていただきました。毎年、日本国大使館主催の日本フェスティバル、J FESTが行われるのですが、私が関西人ということもあり、モスクワで初めてたこ焼き、お好み焼き、たい焼きなど、屋台風メニューをロシア人に紹介、販売しました。現在、日本のテレビにも出たことがあるロシア人の方が、たい焼きのお店をオープンしたり、たこ焼き、ラーメンなど、お寿司以外のメニューでお店をオープンする人も増えてきています。

あと、モスクワで苦労したのが、スタッフが勝手にレシピを変えるということでした。料理の知識のないスタッフになぜ駄目なのかを、作る側のスタッフに教えるのも大変苦労いたしました。

これからもロシア人の人々に、日本食の良さ、日本食材を知っていただきたために頑張って情報発信していくたいと思います。この度は賞を頂き、ありがとうございました。

# 協議会総会 議事録6

## 【受賞者スピーチ（ビデオレター）：和久田哲也氏】

和久田哲也でございます。この度はこのような名誉な賞を頂き、本当に光栄に思っております。私は、長年シドニーで「Tetsuya's」、そしてシンガポールで「Waku Ghin」という店を経営しております。そして、私がこうして海外で生きてこれたのは、やはり、まず私が日本人であり、日本のものが好き、愛してやまないということによると思います。そして、自分が知っている和食と現地の食を融合させたものをシドニーで始め、シンガポールでも同じような、と言いながら、シンガポールの場合は、ほとんど9割和食でございます。和の色のある食事をお客様にお作りしております。特にこの10年間、よく日本にも訪問し、いろんな生産者の皆さんとつながることができ、それをシンガポールの方々に召し上がっていただいております。今後、今まで以上に、日本そして日本の食の素晴らしさというものを世界に発信していけたらと思います。本日は本当にありがとうございます。

# 協議会総会 議事録7

## 【受賞者スピーチ：株式会社柴沼醤油インターナショナル】

ただいまご紹介いただきました、柴沼醤油インターナショナルの柴沼と申します。本日はこのようなコロナ禍の難しい状況の中で、このような素晴らしい会を開いていただきまして、誠にありがとうございます。弊社の本体の柴沼醤油醸造というしょうゆの蔵元は、茨城県の土浦市で創業が今年で333周年になります。江戸の元禄元年より創業しております。そこで私がちょうど18代目になります。江戸時代、初代頭首が筑波山麓の雄大な土地から大豆と小麦を採り、そして、そこでしょうゆを醸造し、そして地元であり、あとは桜川と通して利根川を通り江戸に運び、そして江戸の食の台所を本当にしょうゆという基礎調味料で下地を支えてきたというのが、弊社の創業の始まりになっております。そこから時代が変わり、平成、そして令和となり、私たちの時代になり、今は世界に向けて、現在、弊社では62カ国にしょうゆを中心で輸出をしております。私たちはもちろんしょうゆというのもベースにありますけれども、各地、全世界を回りながら日本食という文化を広めていくということをみんなの合言葉にしながら、本当に日本食の素晴らしさとか日本食の調味料であったり、日本食の作り方であったり、そういうものの、今、本当に世界中でブームになっている日本食を、ブームではなく文化として広めたいという思いの中で活動をしてまいりました。そして、このたび、このような本当に素晴らしい賞を頂けたことで、われわれも励みになり、また、これからも日本食を世界中に普及していきたいというふうに思っております。本日は誠にありがとうございました。

# 協議会総会 議事録8

## 【受賞者スピーチ：株式会社築地太田】

ただいまご紹介いただきました、築地太田の太田でございます。本日は輸出に取り組む優良事業者表彰において、農林水産大臣賞という大変栄誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。弊社は築地市場より長年国内における鮮魚流通に携わってまいりましたが、6年ほど前より本格的輸出に取り組み、現在では北米を中心にミシュランを獲得していらっしゃるレストランの方をはじめとして、地元の方が気軽にいらっしゃる飲食店の方も含め、いろいろなお客様に日本の新鮮な鮮魚を日々お送りしております。輸出に取り組みました当初は、全く何も分からず、まずは現地のお客様からお話を伺おうというところからのスタートでございました。その中でいろいろなお話を頂戴いたしました。ある所では、日本の魚に興味あるのだけれども、Instagramでもよく見ているのだけれども、一体どうやって注文すればいいのかというご注文。あるいは、日本の魚を現地の魚屋さんで注文するのだけれども、たまに腐ったような魚が届くのだけど、おたくは大丈夫なのかというお話や、あるいは、日本の魚を注文したいのだけれども、ちょっと高くて手が出ないというような、いろいろなお話を頂戴いたしました。その中で、ウェブサイトにログインすれば世界中どこからでもすぐにご注文いただけるという仕組みを作り、また、日本から現地までのコールドチェーン物流を構築し、そして、デジタル化による省力化を図り、お客様のニーズにお応えできるような価格設定をするというようななかたちでの努力をしてまいりました。私どもの鮮魚の輸出というのは、文字どおり、小ロット多品種ということで、大変手間の掛かる仕事なのですが、逆にこの分野は日本人が得意としているところもあり、今後はまさしくこここそが差別化のポイントだというふうに思っております。また一方で、海外の皆さまはSNSの発達もあり、日本の食文化に対する興味や知識を非常に持ちの方が多くなっています。そういう中で、単一化した単品商品ではなく、バラエティーに富んだいろいろな商品を皆さんには望んでいらっしゃると感じております。

まさしくここにマッチングするビジネスチャンスがあると確信しております。小ロットもまとまれば大ロットになります。今後は産地の生産者の方はもちろんのこと、ほかの生産品を扱う事業所の方とも協力体制を築き、オールジャパンでの生鮮品輸出に寄与できればというふうに考えております。その上で、日本の生鮮品輸出の一助となるよう、今後とも精進してまいります所存でございます。どうぞ今後ともご指導、ご支援のほどお願い申し上げまして、私のごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

# 協議会総会 議事録9

## 【受賞者スピーチ：株式会社ミトク】

このたびは身に余る、栄誉ある賞を頂きまして誠にありがとうございます。株式会社ミトクの社長を務めております、吉田と申します。弊社は世界40国余りに、みそ、しょうゆ、またり、みりん、米酢などの発酵食品を中心に、お茶、ノリ、昆布、ワカメ、寒天、クズなどを輸出しております。このたび頂きました賞は、弊社だけのものではなくて、素晴らしい伝統的な食品を作られる弊社の仕入れ先さま、皆さんで頂けた賞だと認識しております。現在、SNSの普及でいろいろな情報がオンライン上に、しかも手軽に世界を駆け回っております。この情報が急速に共有される中で、伝統的な製法で作られた日本の食品の情報も、もちろん世界に向けて大きく発信されております。しかしながら、物流は少し立ち遅れています。例えば、素晴らしい伝統食を作られている地方のお父さん、お母さんが営まれる小さなメーカーさんは、やはり輸出障壁がございまして、なかなか自力で輸出することはできない状態でございます。弊社は世界基準の原料、世界基準の包装材の手配、それに係る教育、そして物流、マーケティング、啓蒙活動もきめ細かく提供することにより、まさにメーカーさんと二人三脚で世界に日本の伝統食を広めてまいりました。結果的には、伝統的な日本の食品産業を守って、次の世代の継承にも大きく寄与しております。オーガニック食品に特化することで、われわれの提供する食品は常に食への関心の高い方々に注目していただいております。オーガニック認証の基礎知識や運用により、今ではアレルゲンフリー、グルテンフリーの市場、ハラール、コーチャなど、多様な宗教市場にも積極的に参入することができている状態でございます。コロナ禍中、世界の健康が早く戻るよう、日本の素晴らしい伝統食品を海外に紹介して、これからも輸出拡大に頑張ってまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

# 協議会総会 議事録10

## 【受賞者スピーチ：東亜食品工業株式会社】

ただいま紹介いただきました、兵庫県姫路にございます、東亜食品の井上でございます。このたびは本当に栄えある賞を頂戴しまして、私どもはまだまだ小さな会社なんすけれども、一生懸命世界中のにおいしい乾麺を食べていただこうと努力してきたことを、こうやって認めていただけるというのは、本当に全社員、従業員の誇りになると思っております。私ども、乾麺というのはうどんとかおそばとかそうめんとかいろいろあるのですが、日本の食品としては非常に早い段階から海外に広がった食材だと思っています。

しかしながら、なかなかそこからもっと拡大することができずに、いろんな所で海外産の日本もどきの乾麺にマーケットをどんどん食い荒らされると、そんなこともありますて、本当にじれったい中でずっと輸出をしてきたのですが、ちょうど2000年を過ぎた辺りから、食品安全を徹底的に追求しまして、まず最初にHACCPを取り、ISO22000、FSSC22000と、食品安全を追求することによって日本のおいしい、品質の高い麺が、安全安心とともに世界の人に認められるようになってきたと、そういうことを始めて、非常に海外のほうからいろんなニーズが入ってくるようになりました。その後に、実際、海外のマーケットをずっと回りますと、やはり世界にはいろんな法律であったり、いろんな宗教上の問題であったり、要するに日本の麺が食べたいけれどもいろんな理由で食べられない、食べてみたいんだけども食べられないという方がたくさんいることに気が付きました、今から6年前、日本の乾麺のメーカーとして初めてハラール認証を頂戴しまして、世界のムスリムの方にも安心して食べていただけるようにしました。それから、ちょうど今月ですけれども、アメリカのほうのコーチャ認証も頂きました、そういった方々においしいものを食べていただく、本物の日本の麺のおいしさ、日本のおいしい麺を世界の人に届けする、そのためいろいろなハードルというか、障壁はありますけれども、私たちがいろんなことをクリアしていくことによって、そのハードルを乗り越えていきたいというふうに取り組んでおります。数年前にアメリカのマーケットに行った時に、世界の食文化の中でグルテンフリーというのが非常に進んできていると。私ども、乾麺というのは本来は小麦で作るのですが、グルテンフリーにするために小麦を使わずに、日本の国産のお米を使って麺を作ったり、いろんな多様化をしてきました。これからももっと、世界のいろんなニーズに合わせた商品を作つてお届けして、日本食のおいしさを世界中の人に認めていただきたいと思っております。これからも頑張って取り組んでまいりますので、また引き続き、ご支援をいただきますように、よろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

# 協議会総会 議事録11

## 【受賞者スピーチ：出羽桜酒造株式会社】

出羽桜酒造の那須と申します。弊社社長ですが、ちょうど酒造りの仕込みの期間中でございまして、本日は出席できず、メッセージを預かってまいりましたので、代読させていただきます。このたびは農林水産省、食料産業局長賞に弊社の輸出の取り組みをご選出いただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思っております。出羽桜酒造は1892年、山形県天童市で創業しました。天童市は将棋といで湯の里です。周囲を山々に囲まれた盆地のため、夏は30度を超える暑い日が続き、冬は雪に覆われます。また、1年を通して朝晩の寒暖差が大きく、米や果物などの一大産地になっております。輸出は地酒メーカーとしてはいち早く、1997年より本格的に開始いたしました。欧州から始まり、アジア、米国へと広がり、現在、約50カ国に広がっています。輸出を始めた当初は、海外では熱かんを扱う大手の日本酒などが知られているだけで、吟醸酒、純米酒などの特定名称酒の輸出はごくわずかでした。そこで日本酒本来の良さを世界の人々に味わっていただくために、吟醸を世界の言葉に、をスローガンに掲げ、吟醸酒を中心とした高付加価値の日本酒の輸出に取り組みました。弊社が輸出をする上で一番力を入れているのは、現地で販売を行うパートナーの教育と理解です。日本酒には、美しい自然、おいしい水と米、優れた技術など、日本の素晴らしさがぎゅっと詰まっています。その日本を象徴するような日本酒を海外に発信して、日本の文化を理解し、語ってもらいたい、そういう思いで取り組んできました。ただ単に日本酒を売るのではなく、日本の良さ、日本酒の良さを伝える、ワインのようにお酒のつくられた地域の風土や文化、蔵人の思いやこだわりも併せて楽しんでいただき、パートナーの方々がワインのソムリエのように日本酒の代弁者になっていただけるよう、日々、お互いに研さんし、情報交換しながら進めております。現在、コロナ禍で大変厳しい状況ではありますが、厚い雲の上はいつも晴れという言葉を信じて、このたびの受賞を励みに、今後とも日本酒を通じて日本の素晴らしさを世界に伝えるとともに、日本の優れた食品、農産物の輸出促進にも微力ながら貢献したいと考えております。ということでございまして、本日は誠にありがとうございました。以上でございます。

## 【受賞者スピーチ：株式会社ウオショク】

ただいまご紹介いただきました、ウオショクの宇尾野でございます。このたびは本当に栄誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。賞を頂きました雪室熟成和牛は、新潟の地域資源ともいえる雪を利用した雪室で熟成した和牛でございます。地域資源を利用して、そして日本固有の和牛に地方の付加価値を付けて海外へ販売しようという取り組みでございます。3年ほど前から取り組みを始めまして、現在ではシンガポール、ベトナム、アメリカ、カナダに輸出をしております。海外ではスローエイジング和牛という商標で販売をさせていただいているところであります。海外のお客さままであります、ホテル、レストランのシェフの皆さまからは、品質はもちろんでありますけれども、新潟特有の雪室を使った熟成という、ほかにはない独自の方法と、それから電気を使わない、雪のエネルギーで熟成をしているというエコな製造方法というところが、ご支持をいただいているところかなと思っています。現在、4カ国の輸出でございますけれども、これからももっとたくさんの国に日本の和牛の魅力、そして、新潟の雪室の魅力を広げていきたいというふうに思います。努力をしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。本日は大変ありがとうございました。

# 協議会総会 議事録12

## 【受賞者スピーチ：井村屋グループ株式会社】

ただいまご紹介にあがりました、井村屋グループの井村と申します。まず最初に、このような状況の中、いろいろご配慮をいただきまして、こういった会を開いていただきましてありがとうございます。御礼申し上げます。また、本日このような栄誉ある賞を頂いたのも、手前みそですが、井村屋、われわれの仲間、製造、販売の仲間が頑張った証。かつ各国の規制に対応するために細かい要望に応えて、原料、包材を供給していただいている皆さま、運んでいただいている皆さま、販売していただいている皆さま、その代表して御礼を申し上げたいと思います。われわれ、井村屋グループは1896年、三重県松阪市でようかんの製造、販売、まさに街の和菓子屋として創業いたしました。そこから加工食品、ゆで小豆の缶詰め、冷凍食品、肉まん、あんまん、アイスクリーム、あずきバーと商品を広げてまいりました。海外事業所においては輸出を中心としながら、アメリカ、北京、大連、マレーシアにまで事業を広げさせていただいております。もちろんわれわれのメンバー、仲間の努力もありますが、こういった結果に至っているのも先人の皆さまたちが日本食のおいしさ、素晴らしさを広げてきていただいた、その結果、井村屋グループはそのレールに乗っているだけに過ぎません。また、ほかの産業の方々も日本企業の信用を築き上げていただいたからこそ、日本食品のおいしさ、品質の確かさというものを認めていただいていると思っております。われわれ井村屋グループも、こういったレールを絶やさぬよう、次の皆さま、仲間たちにつなげていけるように少しずつ努力をしていきたいと思います。まだまだ至らぬ会社ですので、今後ともご指導、ご支援、そして、ご縁をたまわりたいと思います。どうもありがとうございました。

# 協議会総会 議事録13

## 【受賞者スピーチ：あづまフーズ株式会社】

あづまフーズ株式会社の中島と申します。本日はこのような栄誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。私どもあづまフーズは、三重県にあります水産加工のメーカーでございます。海外事業を1981年にスタートしております。これは創業者の東俊順の海外への強い期待と国内への危機感、こういったものが海外展開への大きな原動力となっております。1990年にアメリカ、カリフォルニア、2003年にカナダ、バンクーバー、2010年に中国、蘇州、2014年にイギリス、2019年にペルーに海外製造拠点と販売拠点を展開させていただいております。本社機能があります日本は、今では居酒屋の定番にもなっているたこわさびの生みの親、パイオニアとして、日本国内で商品の展開をさせていただいております。日本からの輸出先としましては、アジア、中東、オセアニア、この辺りを中心に販売を増加させてまいりました。私どものような小さな企業が、海外に向けて販売量を伸ばすことができた一つの要因としましては、原料の検品でありますとか、自社でバンニングすること、通関手続き、こういったものも一貫されることによって、中間コストを削減するということに努め、海外の先さまにどのようにメリットを見いだすか、こういったところを第一に考え、また、新商品の開発に対しても日本独自のもののみならず、最近ではプラントベース、世の中では最近流行しています代替肉、こういったものの開発も積極的に取り組みまして、味付けごとにビーガン認証も取り、最近では輸出アイテムの中のトップ10に入るような商品にまで育ってきております。あと、早くから海外事業を展開しているという部分で、日々変わる輸出であるとか輸入の規制、こういった部分にいち早く対応できるということが、われわれの強みではないかなというふうに考えております。いずれにしましても、輸出というものは、国内で販売するのと比べると非常に手間や、規制であるとか、そういったものが非常に大きく違いますので、手前みそにはなりますけれども、弊社の輸出に携わるスタッフが非常に優秀で、今日、この賞を頂けたのもこのスタッフのおかげだと思っております。そういった中で、彼らはあづまフーズの商品だけではなく、他社さんの商品も一緒に積み合わせることで、お客様のメリットを見いだすようなことも考えています。あづまフーズだけではなく、チームジャパン、日本全体の輸出が増えればというところも、一つ、念頭に持って動いております。今日はこのような大変名誉な賞を頂きまして、本当に感謝しております。これからも輸出に貢献できるように精進してまいりますので、本日はどうもありがとうございました。

# 協議会総会 議事録14

## 【受賞者スピーチ：株式会社和田萬】

ご紹介いただきました、株式会社和田萬、和田でございます。本日はこのような栄えある賞を頂戴いたしまして、誠に感謝いたします。ありがとうございます。私どもは大阪天満にある創業1883年のゴマを焙煎する専門のメーカーです。私どもが作っている商品は、ゴマを焙煎して作ったりごま、すりつぶしたすりごま、練りましたごまのねりごま、それからごま油、こういったものを製造しております。私どもが輸出に取り組み始めたのは2010年ごろからです。取り組むに当たって、このゴマという商品は世界にありふれた食べ物なのですが、どこでも手に入れられるのですが、これをどうやって独自化、差別化していくかということを考えました。その中で至ったことは、私の父親はゴマの焙煎を、今も元気でやっているのですが、45年している焙煎の職人で、世界で一番ゴマの焙煎が上手だと思っています。ここを差別化するために重点を置いて商品の紹介をしていきました。これはどこにでもある、世界のどこでも手に入る原料でありながら、日本的であるというものをを作るに至ったポイントでした。もう一つは、日本産のゴマを強化することです。日本のゴマ市場というのは、年間輸入量は約16万トンです。16万トンのうち、日本のゴマの生産量というのは、今年は約50トン、0.1%をはるかに切っております。ますます毎年下がっています。そんな中で私は2010年から自分でゴマの種をまいて畑を作りということを行いまして、奈良県葛城市ということで、今、農家さんと一緒に1町、金ゴマの栽培をしております。こちらのものを自分たちで作って、自分たちで世界で一番おいしい焙煎をして輸出をする、これをより強化していくことで、さらに私たちのゴマの輸出という事業を強化していきたいと思っております。このようなポイントが今回認められたのかなと少し思っておりますので、今後も皆さんのご協力を仰ぎながら、励んでいきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

# 協議会総会 議事録15

## 【輸出促進政策の現状と課題の報告】

ご紹介いただきました、食料産業局長の太田でございます。先ほど茂木会長からも、そして総理、農林水産大臣からもお話をありました、今回、取りまとめられました輸出戦略につきまして、若干お時間を頂ければと思います。これは5年後の2025年に2兆円、そして2030年に5兆円という輸出目標に向かまして、10年間で5兆円に持っていくということでございますので、ずっと10年間じわじわと何かをするということではなく、まずスタートダッシュで必要であるということで、まず当面、来年の夏までに何をするかということで、当面の輸出戦略ということで取りまとめをいたしました。まず1ページ目になります。これはこの目標の達成に向けまして、海外市場で求められるスペックの产品、これを専門的、継続的に生産し、販売をするということです。すなわち輸出事業全体をマーケットインに徹底的に転換するということが最も必要であるということで、三つの基本的な考え方に基づいて、速やかに実行する戦略、そして夏までに方向性を決定する戦略、こういったものを取りまとめました。一つ目が、日本の強みを最大限に生かす品目別の具体的な目標を設定するということです。それから、二つ目が、マーケットインの発想で輸出にチャレンジする農林水産事業者を後押しするということです。三つ目が、省庁の垣根を越えて、いわゆる縦割りを廃して、政府一体として輸出の障害を克服することです。こういった三つの柱で構成されております。ページをめくっていただきまして2ページをお願いいたします。総理からのごあいさつにもありましたように、27品目の重点品目を選定しております。これは牛肉をはじめとして、食味や見た目の美しさなど、海外で評価される日本の強みを有していて、輸出拡大の余地の大きい品目、これを27品目選定いたしました。またページをめくっていただきまして、27の重点品目ごとに輸出に向けたターゲットとなる国や地域を特定いたしまして、このターゲットとなる国や地域ごとの輸出目標を設定するということ、それから、目標の達成に向けた課題を明確化するということを戦略として打ち出しております。また、海外への販売力を強化するために、重点品目ごとに品目の団体を組織しまして、その団体が主体となって輸出先国の情報収集、あるいは販売戦略づくりに取り組むということをやりつつ、ジェトロ、JFOODO、それから国もその取り組みを支援するということとしております。4ページ目がそれぞれの具体的な戦略でございます。これは抜粋でございますけれども、本体はもっと詳しく品目ごとにそれぞれ何をするかということを位置付けております。5ページ目をお願いいたします。

プロダクトアウトからマーケットインの転換は、いわゆる余ったものを輸出するということではなくて、最初から輸出向けに戦略を立ててものづくりをしていくという、今日、受賞された皆さまはそういったことに昔から取り組まれてできておられる方々でございますけれども、今、農林水産物、食品の輸出は9121億です。それを2兆円にし、5兆円にしていくという意味では、10年後には4兆円の方々にそういったマーケットインへの転換をしていただくということが必要になります。そういったことに向けて、輸出に取り組む事業者へのリスクマネーの供給、そういったこともやっていきますし、それからニーズや規制に対応した产品を、求められる量、価格といったスペックで継続的に提供するために、主として輸出向けの生産を行う輸出産地、こういったものを令和2年度、今年度中にリスト化いたしまして、輸出産地の形成に向けた必要な施設整備を重点的に行っていこうということです。それから、さらに大ロットや高品質、効率的な輸出に対応した輸出物流、これを構築するために、農林水産省ではなかなかできないことでございますので、国土交通省とも連携をしながら、地方の公安、空港の具体的な利活用の方策や、海外におけるコールドチェーン、こういったものの整備も行っていこうということを位置付けております。最後に6ページをお願いします。

マーケットインへの輸出に当たりましては、海外現地での情報、それから売り込み、輸出規制に対応する政府間協議、こういったさまざまな関連分野で、政府による環境整備が不可欠になっております。これを農林水産物、食品の輸出本部のもとで政府一体となって協議を進めていきます。また、輸出先国、地域の規制に対応するために、HACCP対応施設などの施設の整備目標を定めまして、計画的に施設整備を進めていくということ、それから、輸出促進法に基づきまして、施設の認定、こういったものも迅速に行っていこうということでございます。さらにわが国の品種、あるいは生産、加工技術が海外に流出いたしまして、日本の事業者の強みが失われないように、知的財産対策というものも強化をしていこうということでございます。こういったことを戦略として取りまとめまして、まず当面のスタートダッシュとして、今年度中、そして来年の夏に向けて取り組んで、5年後、10年後に向けて目標達成していきたいと位置付けているものでございます。どうかご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

令和2年度  
日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大委託事業  
(日本食・食文化の功労者表彰)

---

## 協議会総会 制作物

---

# ホームページへの掲載



農林水産物等輸出促進全国協議会は、我が国の高品質な農林水産物・食品の輸出を一層促進するため、関係者が一体となつた取組を推進することを目的に、平成17年4月27日設立されました。

農林水産団体、食品産業、流通関係団体、外食・観光関係団体、経済団体、47都道府県知事、地域ブロック輸出促進協議会、関係省庁が参加し（全172会員（令和2年12月現在））。官民一体となった取組を推進しています。

## これまでの取組

- 平成17年4月27日 設立総会
- 平成18年5月31日 平成18年度総会（18年度「農林水産物等輸出倍増行動計画」の決定 等）
- 平成19年5月25日 平成19年度総会（「我が国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」の了承 等）
- 平成20年6月20日 平成20年度総会（「我が国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」改訂の了承、「ニッポン食の親善大使」就任式 等）
- 平成21年6月29日 平成21年度総会（「我が国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」改訂の了承、「世界が認める日本の食150」の発表 等）
- 平成22年6月11日 平成22年度総会（農林水産物等の輸出に関する有識者による講演、第5回日本食海外普及功労者表彰受賞者の紹介 等）
- 平成24年11月14日 平成24年度総会（「新たな輸出戦略に基づく取組」の説明、第6回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成25年11月1日 平成25年度総会（「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」の説明、第7回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成26年11月21日 平成26年度総会（「輸出戦略実行委員会の取組状況」の説明、第8回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成27年10月30日 平成27年度総会（「輸出戦略実行委員会の取組状況」の説明、第9回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成28年11月25日 平成28年度総会（「輸出戦略実行委員会の取組状況」の説明、第10回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成29年11月24日 平成29年度総会（「輸出拡大に向けた取組状況」の説明、第11回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 平成30年12月19日 平成30年度総会（「農林水産物・食品の輸出促進について」の説明、第12回日本食海外普及功労者表彰受賞者による講演 等）
- 令和元年12月13日 令和元年度総会（第13回日本食海外普及功労者表彰受賞者及び第4回輸出に取り組む優良事業者表彰受賞者によるスピーチ 等）
- 令和2年12月11日 令和2年度総会（第14回日本食海外普及功労者表彰受賞者及び第5回輸出に取り組む優良事業者表彰受賞者によるスピーチ 等）

## 令和2年度総会の様子

### 挨拶を述べる茂木会長



### 挨拶を述べる野上農林水産大臣



### 挨拶を述べる菅総理大臣



### 記念撮影



1列目に菅総理大臣（左から4人目）、野上農林水産大臣（左から3人目）、茂木協議会会長（右から4人目）、馬場食流機構会長（右から3人目）、受賞者3名。2列目に受賞者7名、3列目右から太田食料産業局長、選考委員・選奨委員3名、飯田貿易経済協力局長。

# ホームページへの掲載



日本食海外普及功労者表彰事業は、日本産農林水産物・食品の輸出の一層の拡大に向けて、海外に在住し日本食・食文化又は日本産農林水産物・食品の海外での紹介・普及等に多大に貢献してきた者（日本食海外普及功労者）に対し、農林水産大臣賞を授与するものです。

[Click here to see in English.](#)

## 第14回 日本食海外普及功労者表彰受賞者

### 岸本 秀樹（きしもと ひでき）

「いちばんぼし」ブランドシェフ  
日本食普及の親善大使

- ▶ [プロフィール\(PDF: 505KB\)](#)
- ▶ [講演内容\(PDF: 120KB\)](#)

### 富田 建生（とみた けんせい）

日本食レストラン「ごてつ」経営  
日本食普及の親善大使

- ▶ [プロフィール\(PDF: 494KB\)](#)
- ▶ [講演内容\(PDF: 115KB\)](#)

### 和久田 哲也（わくだ てつや）

「Tetsuya's (オーストラリア)」、  
「Waku Ghin (シンガポール)」  
オーナーシェフ  
日本食普及の親善大使

- ▶ [プロフィール\(PDF: 507KB\)](#)
- ▶ [講演内容\(PDF: 70KB\)](#)

### 後援

知的財産戦略本部、外務省、経済産業省

## The Winners of the Minister's Awards for Overseas Promotion of Japanese Food



The Minister's Award for Overseas Promotion of Japanese Food is awarded to persons who have made outstanding contributions to the introduction and spread of Japanese cuisine, Japanese food and other Japanese agricultural and fishery products overseas. Its purpose is to further expand exports of Japanese agricultural, fishery and food products. Both foreign nationals and Japanese nationals residing overseas are eligible.

### The Fourteenth Award Winners' Profiles

#### Hideki Kishimoto

Brand Chef for Ichibanboshi  
Japanese Cuisine Goodwill Ambassador

- ▶ [Profile\(PDF: 111KB\)](#)

#### Kensei Tomita

Owner of Japanese Restaurant Kotetsu  
Japanese Cuisine Goodwill Ambassador

- ▶ [Profile\(PDF: 98KB\)](#)

#### Tetsuya Wakuda

Owner Chef of Tetsuya's and Waku Ghin  
Japanese Cuisine Goodwill Ambassador

- ▶ [Profile\(PDF: 113KB\)](#)

### Supported by

Intellectual Property Strategy Headquarters, Ministry of Foreign Affairs, Ministry of Economy, Trade and Industry

# 協議会総会配布物【受付配布・席置き配布】

## ■受付配布物

- ・識別証

※所属毎に、以下識別分けを行い、受付にて該当パスをお渡し

農林水産省様（赤）  
農林水産省

会員（緑）  
MEMBER

プレス（黄）  
PRESS

関係者（薄緑）  
関係者

他省庁（ピンク）  
省庁関係者

運営スタッフ（黒）  
STAFF

食流機構関係者  
食流機構関係者



●識別証デザイン

- ・胸章（赤：受賞者・白：登壇関係者、選考委員が着用）



## ■席置き配布物

### 【封入物一覧】

- ・総会議事次第
- ・資料1 輸出促進全国協議会（構成員等）
- ・資料2 功労者受賞者プロフィール
- ・資料3 優良事業者事業紹介冊子
- ・資料4 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（概要）
- ・資料5 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（本文）

※上記を茶封筒に封入し、席置きにて出席者へ配布  
※欠席者へは後日郵送

令和2年度  
日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大委託事業  
(日本食・食文化の功労者表彰)

---

## 媒体掲載関連

---

# 媒体掲載関連/新聞・雑誌・Web

## ■媒体掲載関連/WEB

No.	掲載日	メディア名	タイトル	URL
1	20年12月21日	農村ニュース	功労者3名らを表彰 輸出促進協総会を開催 ~農水省~	<a href="https://www.nouson-n.com/media/2020/12/21/5713">https://www.nouson-n.com/media/2020/12/21/5713</a>
2	20年12月13日	フーズチャネル	菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました	<a href="https://www.foods-ch.com/news/press_1264963/">https://www.foods-ch.com/news/press_1264963/</a>
3	20年12月12日	産経ニュース	【菅日誌】12月11日(金)	<a href="https://www.sankei.com/politics/news/201212/plt2012120001-n1.html">https://www.sankei.com/politics/news/201212/plt2012120001-n1.html</a>
4	20年12月12日	JPubb	菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました	<a href="http://www.jpubb.com/press/2597694/">http://www.jpubb.com/press/2597694/</a>
5	20年12月12日	マチバブ	菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました	<a href="http://machi.jpubb.com/jp/r/2597694/">http://machi.jpubb.com/jp/r/2597694/</a>
6	20年12月12日	東京新聞	菅首相の一日 12月11日(金)	<a href="https://www.tokyo-np.co.jp/article/73906?rct=politics">https://www.tokyo-np.co.jp/article/73906?rct=politics</a>
7	20年12月12日	食肉通信	農水省が輸出全国協議会、菅首相「加工施設整備進め拡大へ全力」	<a href="https://www.shokuniku.co.jp/7993">https://www.shokuniku.co.jp/7993</a>
8	20年12月12日	Yahoo!ニュース (時事通信社)	首相動静(12月11日)	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/be46c4784da601146a48638101c3ce930fc3d564">https://news.yahoo.co.jp/articles/be46c4784da601146a48638101c3ce930fc3d564</a>

# 媒体掲載関連/新聞・雑誌・Web

## ■媒体クリッピング

### ■農村ニュース

#### 農村ニュース

2020/12/21

功労者3名らを表彰 輸出促進協議会を開催 ~農水省~

トピックス 行事

農水省



農林水産省は、12月11日午後に都内において、「農林水産物等輸出促進全国協議会」の総会を開催し、日本食海外普及功労者の表彰などを行った。同協議会は、日本の農林水産物・食品の輸出を一層促進するため、官民の関係者が一体となった取組を推進することを目的に、平成17年に設立されたもの。年一回総会を開催し、総会では日本食海外普及功労者への農林水産大臣賞の授与などが行われる。今回は、功労者3名と、優良事業者10社が表彰され、スピーチを述べた。

### ■フーズチャネル

#### FOODS CHANNEL

菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました

掲載日：2020年12月11日 / 提供：首相官邸



農林水産物等輸出促進全国協議会総会

令和2年12月11日

挨拶する菅総理

受賞者の記念撮影

令和2年1月2月1日、菅総理は、都内で開催された令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました。

総理は、挨拶で次のように述べました。

「農林水産物等輸出促進全国協議会の総会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

始めに、日本食海外普及功労者、輸出に取り組む優良事業者として表彰されました皆様方に、心からお祝いを申し上げる次第でございます。食習慣が異なる海外における、我が国の食文化の普及や輸出の拡大に大きな貢献をされましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

農産品の輸出拡大によって地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んでまいりました。実は私、秋田の農家の長男坊でありまして、地方の所得を引き上げること、引き上げば多くの人が地方に帰ってきて、農業を、後継者としてしっかり育ててくれる、その思いで官房長官としても農業改革、林業改革、漁業改革、そういうものを全面的に、農水省を支援してきたものであります。

これまで、積極的に取り組んできたその結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は、9,000億円と倍増いたしました。今年は年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況でございましたけれども、直近の10月は輸出額は対前年比21.7%増と大きく回復しております。さらに輸出額を向上させるために25年に2兆円、30年に5兆円という大きな目標を設定いたしました。先週、その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめました。牛肉やイチゴを始めとする27の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところであります。輸出先国とのニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国との規制に対応した加工施設の整備というものをしっかりと進

んでまいりました。

### ■食肉通信

#### 食肉通信

わが国唯一の食肉産業専門紙

農水省が輸出全国協議会、菅首相「加工施設整備進め拡大へ全力」



農水省は、令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会を11日、東京内のホテルで開催した。同協議会は、わが国の高品質で安全な農林水産物・食品の輸出を一層促進するべく、関係者一起となり取り組みを推進することを目的に、2005年に設立されたもの。農林水産省や食品産業、流通などの関係団体(172会員)で構成し、会長を茂木三郎氏(キッコーマン(株)取締役会長)が務める。日本食海外普及功労者と輸出に取り組んだ優良事業者の表彰を行なうとともに、輸出促進政策の現状と課題を確認した。

総会には菅義偉内閣總理大臣(写真)が出席してあいさつ。「農産物の輸出拡大により地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んできました」として、自身が秋田の農家の生まれであることに触れ、「所得を引き上げれば、多くの人が地方に帰ってきて、農業を後継者としてしっかり育ててくれる。その思いで官房長官としても農業の改革を全面的に支援してきました」と強調。「これまで積極的に取り組んできた結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は9千億円と倍増した。これは年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況になったが、直近の10月は前年同月比21.7%増と大きく回復している。さらに輸出額を向上させるために25年に2兆円、30年に5兆円という大きな目標を設定した。その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめた。牛肉をはじめとする27の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところだ。輸出先国とのニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国との規制に対応した加工施設の整備をしがりと進めていく。今後とも野上大臣、皆さまと力を合わせ、流通の拡大に向け全力で取り組む」とし、協力を求めた。

### ■JPub



菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました

[2020.12.01] 首相官邸 | 中央省庁 | 東京都 | 世上面 | 内閣官房

本リースの公式ページ

[https://www.kantei.go.jp/jp/p/09\\_suga/actions/202012/11nouhai.html](https://www.kantei.go.jp/jp/p/09_suga/actions/202012/11nouhai.html)



農林水産物等輸出促進全国協議会総会

令和2年12月11日

挨拶する菅総理

受賞者の記念撮影

令和2年1月2月1日、菅総理は、都内で開催された令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました。

総理は、挨拶で次のように述べました。

「農林水産物等輸出促進全国協議会の総会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

始めに、日本食海外普及功労者、輸出に取り組む優良事業者として表彰されました皆様方に、心からお祝いを申し上げる次第でございます。食習慣が異なる海外における、我が国の食文化の普及や輸出の拡大に大きな貢献をされましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

農産品の輸出拡大によって地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んできました。実は私、秋田の農家の長男坊でありまして、地方の所得を引き上げること、引き上げば多くの人が地方に帰ってきて、農業を、後継者としてしっかり育ててくれる、その思いで官房長官としても農業改革、林業改革、漁業改革、そういうものを全面的に、農水省を支援してきたものであります。

これまで、積極的に取り組んできたその結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は、9,000億円と倍増いたしました。今年は年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況でございましたけれども、直近の10月は輸出額は対前年比21.7%増と大きく回復しております。さらに輸出額を向上させるために25年に2兆円、30年に5兆円という大きな目標を設定いたしました。先週、その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめました。牛肉やイチゴを始めとする27の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところであります。輸出先国とのニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国との規制に対応した加工施設の整備をしがりと進めてまいります。

今後とも、野上大臣、皆さまと一緒に力を合わせて、輸出の拡大に向け努力してまいります。

皆様の御協力をお祈りいたします。私の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

# 媒体掲載関連/新聞・雑誌・Web

## ■媒体クリッピング

### ■マチパブ

#### マチパブ

全国47都道府県、1741市区町村について  
自治体、官公庁、企業の動きを追跡・分類します

菅総理は令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました

本リースの公式ページ  
[https://www.kantei.go.jp/jp/99\\_suga/actions/202012/11nousui.html](https://www.kantei.go.jp/jp/99_suga/actions/202012/11nousui.html)

前の画面に戻る

関連の地域: 東京都 千代田区



#### 農林水産物等輸出促進全国協議会総会

令和2年12月11日

挨拶する菅総理

受賞者との記念撮影

令和2年1月21日、菅総理は、都内で開催された令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました。

総理は、挨拶で次のように述べました。

「農林水産物等輸出促進全国協議会の総会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。始めに、日本食海外普及効力者、輸出に取り組む優良事業者として表彰されました皆様方に、心からお祝いを申し上げる次第でございます。食習慣が異なる海外における、我が国の食文化の普及や輸出の拡大に大きな貢献をされましたことに、深く敬意を表する次第でございます。」

農産品の輸出拡大によって地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んでまいりました。実は私、秋田の農家の長男でありまして、地方の所得を引き上げること、引き上げれば多くの人が地方に帰って、農業を、後継者としてしっかりと育ててくれる、その思いで官房長官としても農業改革、林業改革、漁業改革、そうしたものを全面的に、農水省を支援してきたものであります。

これまで、積極的に取り組んできたその結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は、9,000億円と倍増いたしました。今年は年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況でありますけれども、直近の10月は輸出額は対前年比2.1%、7パーセント増と大きく回復しております。さらに、輸出額を向上させるために、2025年に2兆円、2030年5兆円という大きな目標を設定いたしました。先週、その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめました。牛肉やイチゴを始めとする2.7の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところであります。輸出先国のニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国の規制に対応した加工施設の整備というものをしっかりと進めてまいります。

今後とも、野上大臣、そして、この場にいらっしゃる皆様と力を合わせて、輸出の拡大に向けて取り組んでまいりたいと思います。格段の御協力を心からお願い申し上げます。

結びに、茂木会長を始め、御臨席の皆様方のますますの御活躍をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### ■東京新聞

#### 東京新聞 TOKYO Web

» 政治

菅首相の一曰 12月11日(金)

2020年12月12日 07時52分

【午前】6時41分、官邸。官邸の敷地内を散歩。7時29分、東京・虎ノ門のホテル「The Okura Tokyo」。レストラン「オーキッド」で秘書官と食事。8時41分、官邸。50分、井川正深厚生労働省医政局長。9時20分、国家安全保障会議。36分、国土強靭化(きょうじゅうかく)化推進本部。10時、閣議。12分、麻生太郎副総理兼財務相、財務省の太田充事務次官、矢野康治主計局長、住沢整主税局長。29分、麻生副総理兼財務相。36分、山崎重季内閣府事務次官。11時13分、東京・紀尾井町のホテルニューオータニ。宴会場「鶴の間」で故松田昌士J.R東日本元社長のお別れの会に出席。24分、衆院第2議員会館。43分、官邸。

【午後】0時2分、自民党的「不妊治療への支援拡充を目指す議員連盟」の和田政事務局長、吉村泰典元内閣官房参与、杉山慶輔人官房長官、西村山力一理事長と会食。1時17分、田村憲久厚労相、赤羽一嘉国土交通相、加藤勝信官房長官、西村康稔経済再生担当相、藤井健志官房副長官補、吉田学新型コロナウイルス感染症対策推進室長、博見英樹厚劳省事務次官。52分、田村厚労相、赤羽国交相、西村経済再生担当相、藤井官房副長官補、吉田新型コロナウイルス感染症対策推進室長、博見厚劳省事務次官。2時6分、薄次裕昭内閣情報官。14分、内閣府の別府充元内閣府審議官、宮地毅政策統括官、原宏彰沖縄振興局長。58分、インターネット動画中継サイト「ニコニコ動画」の特別番組に出演。3時46分、和泉洋人首相補佐官、厚劳省の博見事務次官、正林督管健康局長。4時2分、田村厚労相、加藤官房長官、西村康稔全世界型社会保障改革担当相、和泉首相補佐官、厚劳省の渡辺由美子子ども家庭局長、浜谷浩樹保健局長、伊原和人政策統括官、新原浩朗経済産業省経済産業政策局長。12分、西村経済再生担当相。17分、萩生田光一文部科学相。47分、東京・永田町のザ・キャピトルホテル東急。宴会場「麗鳳」で農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席し、あいさつ。記念撮影。5時1分、官邸。17分、マイナンバー制度および国と地方のデジタル基盤抜本改善ワーキンググループ。52分、秋葉剛男外務事務次官。6時31分、東京・紀尾井町のホテル「ザ・プリンシピヤラリー東京紀尾井町」。レストラン「A Little Day Dining OASIS GARDEN」で和夫三義重工業特別顧問、渡文明ENEOSホールディングス名譽顧問と懇談。7時58分、東京・赤坂の中国料理店「Wakiya 邀賓茶樓」。自民党的藤井比早之、田中良生、星野剛士各衆議院議員と会食。8時58分、衆院第2議員会館。9時23分、東京・赤坂の衆議院議員宿舎。

令和2年12月11日

ライト シア

## 農林水産物等輸出促進全国協議会総会



令和2年12月11日、菅総理は、都内で開催された令和2年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会に出席しました。

総理は、挨拶で次のように述べました。

「農林水産物等輸出促進全国協議会の総会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。」

始めに、日本食海外普及功労者、輸出に取り組む後戻事業者として表彰されました皆様方に、心からお祝いを申し上げる次第でございます。食習慣が異なる海外における、我が国の食文化の普及や輸出の拡大に大きな貢献をされましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

農産品の輸出拡大によって地方の所得を引き上げることは、成長戦略、地方創生の重点課題として、これまで積極的に取り組んでまいりました。実は私、秋田の農家の長男坊であります。地方の所得を引き上げること、引き上ければ多くの人が地方に帰って、農業を、後継者としてしっかりと育ててくれる。その思いで官房長官としても農業改革、林業改革、漁業改革、そうしたものを全面的に、農水省を支援してきたものであります。

これまで、積極的に取り組んできたその結果として、政権交代時と比較して昨年の輸出額は、9,000億円と倍増いたしました。今年は年初来、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況でありましたけれども、直近の10月は輸出額は対前年比21.7パーセント増と大きく回復しております。さらに、輸出額を向上させるために、2025年に2兆円、2030年5兆円という大きな目標を設定いたしました。先週、その達成に向けて、輸出拡大実行戦略を取りまとめました。牛肉やイチゴを中心とする27の重点品目を選定し、品目別・国別に目標を設定したところであります。輸出先国のニーズに特化した産地の育成などを支援するとともに、輸出先国の規制に対応した加工施設の整備というものをしっかりと進めてまいります。

今後とも、野上大臣、そして、この場にいらっしゃる皆様と力を合わせて、輸出の拡大に向け、全力で取り組んでまいりたいと思います。各段の協力を心からお願い申し上げます。

結びに、茂木会長を始め、御臨席の皆様方のますますの御活躍をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。」

令和2年度  
日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大委託事業  
(日本食・食文化の功労者表彰)

---

## 事務局関係

---

# 受賞者対応

## 受賞者への連絡

10月30日

受賞者3名へ事務局の連絡先及び担当者情報をメールでご案内。

## 出欠の確認及び交通・宿泊手配

10月30日～

出欠の確認及びスケジュールの調整を行う。

※11月15日までに全員の出欠を確認。

### 受賞者名

岸本 秀樹 様

富田 建生 様

和久田 哲也 様

### 出欠

コロナ感染症拡大による渡航制限のため欠席

### 出席

国内滞在中のため、新幹線をご利用。

滞在先は、協議会会場と同じ施設(ザ・キャピトルホテル東急)内にある客室をご用意。

コロナ感染症拡大による渡航制限のため欠席

## 受賞及び講演に際しての提出物と当日の案内

11月11日

提出物等のご案内をメール・電話等で行う。（提出締切は11月20日）

受賞者から順次送られてくる各種データを確認。

11月26日

受賞者3名全員分の各種データを拝受。

12月8日

富田 建生 様へ最終案内をメールでご案内。

## 当日のお出迎え

12月11日

リハーサル時及び開会前のお出迎えを行う。

# 協議会会員・選考委員対応

<協議会会員対応>

## 協議会会員への連絡

10月30日

メールにて協議会総会のご案内を送付。（出欠締切は11月8日）

11月8日～

未回答者への出欠確認をメール・電話にて行う。

11月25日

出席者に開始時間変更案内をメールにて配信する。

12月9日

出席者に最終案内をメールにて配信する。

<選考委員対応>

## 選考委員への連絡

11月4日

メールにて協議会総会のご案内を送付。（出欠締切は11月10日）

11月4日

伏木 亨様 メールにてご欠席の連絡をいただく。

11月4日

下渡 敏治様 メールにてご出席の確認が取れる。

11月5日

佐竹 力総様 メールにてご欠席の連絡をいただく。

11月9日

服部 幸應様 メールにてご出席の確認が取れる。

11月10日

村松 真貴子様 メールにてご出席の確認が取れるが、予定が入り都合がつかない場合欠席の可能性もあるとご連絡をいただく。

11月30日

村松 真貴子様 農林水産省様経由でご欠席の連絡をいただく。

# プレス関係対応

<プレス関係対応>

## プレスへの連絡

※農林水産省様とは別途、プレス関係者へ協議会総会に関する案内をリリースする。

国内プレス・メディア向け（申込締切は12月11日まで）

・ファーストリリース  
12月7日（申込締切は12月9日まで）  
メールにて案内を配信する。

・セカンドリリース  
12月10日午前（申込締切は12月11日午後14時）  
メールにて案内を配信する。

# 事務局・運営報告

## 総会の準備について

### <受賞者対応>

- ・事務局開設から、受賞者様へ密に連絡を取り、各種提出物等も開催当日までにご提出いただき、当日の運営・進行をスムーズに行うことができた。富田様は車椅子でのご出席となり、状況を確認しながらホテルとも連携し問題なくご出席いただくことができた。

### <協議会会員対応>

- ・本年は、東京都内団体のみ、1団体1名様にて出席をお願いとした。
- ・欠席団体、都外の団体には、総会終了後当日資料の送付を行った。

### <選考委員対応>

- ・問題なく、事前にご出欠の確認を行うことができた。伏木様、佐竹様、村松様はご都合により欠席された。

### <プレス対応>

- ・事前申し込みよりも総会当日に申し込み無しで来場される方の方が多かったが問題なく対応できた。

## 総会当日の運営について

### <全体>

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、会場のレギュレーションでもある検温・消毒、スタッフや参加者にはマスク着用を徹底した。受賞者の皆様にもご協力頂き、授与時・受賞スピーチ時にはマスク着用の上、実施した。

また各所に受付や演台、ステージ等にアクリルスタンドを設置し、飛沫感染防止対策を行った。

- 記念撮影においても、ソーシャルディスタンスを保ち、撮影する瞬間のみマスクを外して頂くなど、運営面、進行面両方において、コロナ対策を講じた。

### <受付>

- ・事前段階での参加者出欠情報をリストにする際に、「五十音順」「団体名順」のほか、「兼務団体」の表記を行い、受付のしやすさに重点をおき対応、窓口における混乱はなかった。
- ・受付前の待機列もソーシャルディスタンスを確保しての整列を促したが、大きく待機列ができることなく、対応できた。

- ・胸章の着用に関して、受賞者と選考委員は食流機構、JCDスタッフにて、登壇関係者についても農林水産省ご担当者様とJCDスタッフにて事前に担当を決定したため、ご来場時にスムーズな対応ができた。コロナ対策のため、従来はスタッフが胸ポケット等に着用をしていたが、今年度は着用するご本人にて対応頂いた。

- ・プレス受付に関して、事前申し込み・開会前の入場が例年に比べると多数いた。ムービー台が埋まってしまったが、各メディア同士で調整頂いた他、広報担当者からも協力頂くよう呼びかけた。

### <受賞者などの誘導対応>

- ・受賞者や委員の皆様を同室（控室「桐」）にしているため、ご説明や会場へのご案内はスムースに行うことができた。随行者様は会場席数の関係で、総会会場ではなく、控室にて中継をご覧頂いた。
- ・富田様のみ車椅子でのご出席となつたが、事前連絡担当が、当日ご案内までを一貫して担当することにより、ご本人様にも安心してご出席いただくことができた。

### <パネル展示>

- ・功労者3名、優良事業者10社・団体のパネル展示には、多くの方がご覧になられていた。
- また終了後、優良事業者様がパネル前で取材に応じるなど、報道用としても利用されていた。

### <演出>

- ・会場外においての進行状況のモニタリングは控室である桐の間の中継を利用した。

- ・スタートは定刻で開始となり、全てのプログラムは予定時間の通り進行した。菅総理大臣のご入場もほぼ定刻に行うことができた。また、各受賞者のスピーチが長引いたため、最終的には5分オーバーにて終了した。

- ・ステージサイズや記念撮影のレイアウトはソーシャルディスタンスを確保するため、例年より広い間隔を取った。横幅が広がったため、記念撮影時のメディア撮影位置を従来よりも後方にするなど、対応をした。

- ・コロナウイルスの影響で功労者が2名、来日ができなかつたため、事前にメッセージ動画を収録頂き、総会時に上映した。

- ・挨拶や賞状授与用のマイクは利用者を事前に調整し、常にアルコール消毒を終えた状態のマイクを利用することで、コロナ対策に努めた。

